【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和３年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	伊万里市立山代東小学校
1　前年度 評価結果の概要	・学力向上に関しては、学習した内容をもとに表現する力について課題が残った。新学習指導要領に基づき、授業改善が必要である。 ・思いやりのある言動を実践していくために、具体的な言動を紹介する機会や場を設ける必要がある ・運動を好む児童が多く、体育的行事や外遊びなど、積極的に活動することができた。 ・本年度よりコミュニティスクールとなる。PTAや地域との連携に努める。また、山代を愛し、山代を育む人材を育成する。山代の「ひと」「もの」「こと」とのかかわりを通じて、自己有用感を育み、将来に夢や希望を語ることができる子どもを育てていく。
2　学校教育目標	「笑顔で　元気な　東っ子」の育成
3　本年度の重点目標	①　「学び」の楽しさや喜びを味わわせ、学力の向上を目指す。 ②　感性を高め、思いやりに満ちた豊かな人間性を育成する。 ③　基本的生活習慣を身に付けた、心身共に健康で、たくましい児童を育成する。

4　重点取組内容・成果指標　　**中間評価**　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 〇知的好奇心が満たされるような問題提示を行う教師80％	・児童が主体的に取り組めるよう、ICTなどを活用して教材提示の工夫を行う。 ・振り返りのカードを示し、観点ごとの振り返りをする。	B	・授業導入でICTを活用したり、話し合う活動の中でICTを活用したりする機会が増え、児童が主体的に取り組めるようになってきている。 ・ほとんどの授業でめあてとまとめを意識した授業に取り組めている。	B	・授業スタイルの定着は、図れるようになってきた。しかし学習した内容を元に表現する力については、まだ課題が見られるため、授業改善の工夫が必要である。	B	・家庭学習への取り組み方、家庭への啓発が今後の課題である。なぜ家庭学習が必要かを児童に意識させることが必要である。	学力向上対策コーディネーター 研究主任
	〇児童が主体的に学ぶ授業の実践 〇GIGAスクール構想の推進	〇家庭との連携を図り、家庭学習に取り組む児童が80％以上 〇ICTやタブレットを授業などで活用する児童や教師80％	・定期的に「ちゃんと週間カード」を配布し、「学年×10+10」を徹底する。 ・教師が進んでICTを活用できるように、職員研修を行う。	B	・学習計画表を情学年以上に配布し、継続して取り組むことができた。 ・お宝箱フォルダを作成し、活用したり、職員同士の研修を行い、活用する機会を増やし	B	・家庭学習習慣カードの記入については、家庭への啓発は図れてきた。 ・お宝箱の活用をすることで、活用や研修等の充実を図ることができるようになってきた。	B	・家庭学習計画表の記入を実施することで、家庭学習の時間の確保,家庭学習の質の向上につなげていく。また、実施状況の集計を生かし、家庭への啓発を図っていく。	学力向上対策コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	〇年に2回、道徳に関するアンケートを実施し、肯定的な意見を持つ児童の割合を80%以上にする。 〇縦割り活動について、楽しかった振り返りや相手意識をもった行動ができたという感想を持てた等の児童の割合を80%以上にする。	・道徳教育全体計画の重点目標を念頭に置き、児童の発達段階に応じた授業づくりを行う。 ・いろいろな縦割り活動を計画し、異学年交流を通して思いやりの心を育てる。	B	・授業参観時に、「ふれあい道徳」の授業をおこない，保護者と連携して児童の心の育成を目指した。アンケート後，気になる児童に対してカウンセリング等を行った。	B	・「ふれあい道徳」の授業参観を実施し、心の教育を学校と地域と家庭との連携を図った。 ・5年生には、心のアンケートを実施して気になる児童についての理解を深めたが、全学級で実施した方がよかったと思われる。	B	・週１時間の道徳の授業を年間計画や児童の実態に基づいて各担任がきちんと取り組むことで、道徳的心情や実践力を高めることができた。	道徳教育担当 人権･同和教育担当者 各学年担任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	〇学校が楽しいと肯定的な回答をした児童が90％以上	・アンケートを実施し、児童の実態を把握。必要がある場合、速やかに指導する。 ・児童の表情や行動に注意し、支持的風土づくりを目指す取り組みをおこなう。 ・職員間の情報交換を密に行う。	B	・校内アンケートを実施し、配慮を要する児童に対して指導、保護者連絡を行った。また、事案については、職員間で共通理解を図り、全職員で指導する体制を整えた。	B	・アンケートの実施と気になる児童の指導はできた。事案発生後の共通理解、指導等も全職員で取り組むことができた。今後は、問題事案が発生しないよう、予防に力を入れる必要性	B	・職員連絡会で「気にかかる児童」の状況を教員同士で共有し、それぞれの立場から関わりを持って指導・支援を行っていく。ケース会議を実施することができた。	生徒指導担当 教育相談担当 各学年担任
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	〇「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童（6年生）80％以上	・児童の資質･能力を育てるための授業実践 ・目的や見通しを持った体験活動を行い、学びの足跡を残すための振り返りを行う。	B	・昨年度までの校内研究に沿った振り返りを補器続き活用することで、学習内容のメタ認知につながっている。今後は中学進学について具体的な話をしていくとともに、将来のことについて考える機会を増やしていきたい。	B	・将来の自分の姿を想像し、国語科でスピーチをしたり図画工作科で立体作品を作ったりした際、85％以上の児童が積極的に活動に取り組むことができた。	B	・思いやりのある言動を実践していくために、具体的な言動を紹介する機会を多く持っていきたい。児童自身がそれを行えるような場を設けるようにする。	教務主任 各学年担任
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成」 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童90％以上 〇歯と口の健康に関する指導を通して、児童自身の心身の健康に関する実践力を高める。 〇１日3回の歯みがきを実施している児童の80％を目指す。 〇１日3食食べる児童90％以上を目指す。	・発達段階に応じた歯と口の健康に関する指導を行う。またコロナの状況を見ながら児童や保護者に対して歯科講演会を計画する。 ・給食だより等を通し、保護者に食育に関する啓発を行う。また栄養教諭に栄養バランス等について授業をしてもらい食育に関する意識を高める。 ・食生活・歯みがきアンケートを実施し、児童の実態を把握する。	B	・新型コロナウイルス感染症対策のため歯科講演会を行うことはできなかった。コロナの状況をみて実施できる場合は歯科校医と連携して行う。 ・栄養教諭に児童のみならず、給食試食会では保護者にもお話をしていただくことができた。今後も食育に触れ合う機会を増やして生きたい。	A	・感染症予防のため講演会の実施はできなかったが、歯科の治療率を上げるために、治療勧告書を冬休み前に再配布するなどたことで、昨年のむし歯治療率全校平均37％から46％とわずかではあるが向上することができた。歯みがきに関するアンケートが実施できなかったため来年度は実施し、現状を把握する。 ・ふるさと先生などの事業を活用し、地元の食材を用いて食育活動を経験することができ、食に関する興味関心を高めることができた。	B	・児童に対しての歯科講演会を計画する。 ・保護者に向けて、ふるさと先生や企業の方の講演を実施する。 ・ニュースポーツをみんなでやってみることも、効果があると思う。	保体部長 体育主任 保健主事 養護教諭
	〇外遊びの奨励	〇（学校独自成果指標・任意） 〇中休み、昼休みの外遊びを奨励し、外で遊ぶ児童85％以上を目指す。	・なわとび大会や持久走大会などの体育的行事と関連させ、外遊びを通して健康な体つくりを奨励する。	B	・持久走大会は新型コロナウイルス感染症対策のため実施はできなかったが、代替措置としてスポーツチャレンジへの奨励を行った。健康委員会での放送などを行い、進んで実施した学年も多くあった。	A	・中休みや昼休みには外遊びをする児童が全学年を通して多く見られた。 ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、なわとび大会や持久走大会などの健康委員会主体の体育的イベントが実施できなかったことが反省点として挙げられる。感染対策を考慮したイベントの実施方法を検討すべきだった。	B	・外遊びの奨励を行う。週に1回程度は職員も外に出て児童と外遊びを楽しむ。児童とのコミュニケーションができる。	給食担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・週案に退勤時刻を記入させたり定時退勤ボードを活用させたりすることで業務の見通しを持たせる。	A	・職員室の行事黒板に、個人の定時退勤日シールを用意し、自己申告ができるような取組や言葉かけをしたことで、定着できてきた。また.週行事表に帰宅予定時刻を記入することで見通しをもって業務を遂行できるようになってきた。	B	・若手研修会等を計画するなど、ベテランが若手育成についての意識が芽生えてきた。 ・昨年度よりは、定時退勤を心がける職員が増えてきた。（新型コロナウイルス感染防止対策による行事縮小が退勤時刻に影響している感じがした）	B	・学校行事の精査、整理や年間活動を見据えた校務分掌の見直し、検討を全職員で進めていく。	管理職
	〇働き方に関する教職員の意識改革と実践	●働き方に関して、改善したという職員90％以上	・自己目標の中に必ず、働き方改革に関する取り組みを入れる。 ・働き方に関して研修会を行い、意識改革を図る。 ・定時退勤日の設定。	B	・ほとんどの職員が、自己目標の中に働き方を意識した取り組みを入れることができた。 ・なぜ、働き方改革なのか、職員会議等で具体的に話しをすることで、意識化を図ることができた。 ・教材など職員が活用できる資料などをフォルダ内で共有することができた。 ・改善については、個人差があり今後も声かけなどが必要である。	B	・最終的に働き方について改善したと感じた職員は、80％であった。 ・意識はしているが、コロナ禍の中、消毒や感染症対策等、これまでの業務にはなかった作業が増えたため、働き方の改善が十分できなかったと思われる。 ・手本となるような職員がいるので、参考にさせていきたい。また、指導教諭が、活用できる教材などお宝箱に準備してもらったが、活用できていない。	B	・特に若手職員に対しては、指導だけでなく、寄り添いながら一緒に取り組むように支援をしていく必要がある。支援だけでなく、ほめて育てることが大切である。	管理職

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
〇特別支援教育の充実	〇個に応じた指導体制の充実 〇特別支援教育の推進	〇児童に関する情報交換会を週に1回実施する。 〇特別支援教育について理解を深めるため、職員の研修会を年2回以上実施する。	・保護者面談や情報交換会、校内支援委員会を通して保護者や職員間の連携を図り、共通理解をして支援を行う。	B	・連絡会の時に気になる児童の情報を共有し共通理解をすることができた。 ・気になる児童については支援会議を適宜持ち、適切な支援を行えるように計画した。	B	・連絡会の時に気になる児童の情報共有はできた。職員研修も行うことができた。 ・支援計画や指導計画を見直し、より適切な支援が行えるように体制を整えたい	B	・職員連絡会の後に児童に関する連絡会を位置づけるようにしていく。 ・全校児童全体を見渡し、生活面や学習面において、「困り感をもつ児童」にも、今後も、積極的にかかわっていく。	特別支援教育コーディネーター
〇地域連携教育の推進	〇コミュニティスクール・子ども伊万里学の推進	〇各学年、年に1回以上、地域人材を活用した授業や行事を行う。	・学校運営協議会や学校便り等で人材を募ったり、地域に出向いて学校支援への協力をお願いしたりすることで授業に参加していただく。	A	・生活科や総合的な学習の時間を活用した取組ができた。また、学習内容も、地域の「ひと」「もの」「こと」とのかかわりが多く、夢や希望を語ることができる子どもが育ちつつある。	A	・学校便り、学級便り等による教育活動に関する情報を発信することができた。 ・コロナ禍でも十分な感染症防止対策をとりながら地域についての学習や体験活動を行うことができた。	A	・学校ホームページの更新をするにあたっては、更新の方法を研修するなどして、担当者を1人にするのではなく、職員であれば誰でも更新できるような仕組みにする。	管理職

●･･･県共通　〇･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・学力向上については、学習した内容を元に表現する力については、まだ課題が見られるため、授業改善の工夫が必要である。 ・思いやりのある言動を実践していくために、具体的な言動を紹介する機会や場を設けるようにする。 ・運動を好む児童が多く、体育的行事や外遊びなど、積極的に活動をすることができた。 ・コミュニティ・スクールとして、PTA、地域の方との連携に努める。また、山代を愛し、山代を育む人材を育成する。山代の「ひと」「もの」「こと」とのかかわりを通じて、自己有用感を育み、将来に夢や希望を語ることができる子どもを育てる。